

くまやく健康だより

発行：一般社団法人 熊谷薬剤師会

市内全小・中学校配布 — 2021年 1月 1日

第51号



かんそうはだ せいでん き 乾燥肌と静電気



◆ かゆい ◆ ◆ ◆ 皮膚の乾燥

冬になって空気中の湿度の低下や冷たい風によって、皮膚の痒みを感じる事が多くなったりしませんか？
皮膚への刺激は、「痒み」あるいは「痛み」として脳につたわりますが、痒みは皮膚の表皮と真皮の境目近くにある神経の末端から、主に「C-線維（細く、伝達速度が遅い神経で痒みを伝える）」によって脳へ伝達されて「痒み」と認識されます。例えば、痒みを引き起こす物質のひとつである「ヒスタミン」が神経に働くと脳で痒いと感じるのです。

◆ 皮膚が傷つき感染しやすくなってしまうので、爪で掻き壊してはいけません

痒い所を掻くと気持ちがいいものですが、掻きすぎたり、強く掻いたりすると、皮膚の防御機能が低下したり皮膚の水分が失われてしまって、乾燥肌（ドライスキン）の原因になることもあります。乾燥肌は、衣服とこすれる刺激など少しの刺激にも敏感に痒みを感じるようになり、いったん痒いところを掻きはじめると、色々な炎症を引き起こす物質が放出されて、広い範囲までかゆくなってきて皮膚の炎症が悪化してしまいます。

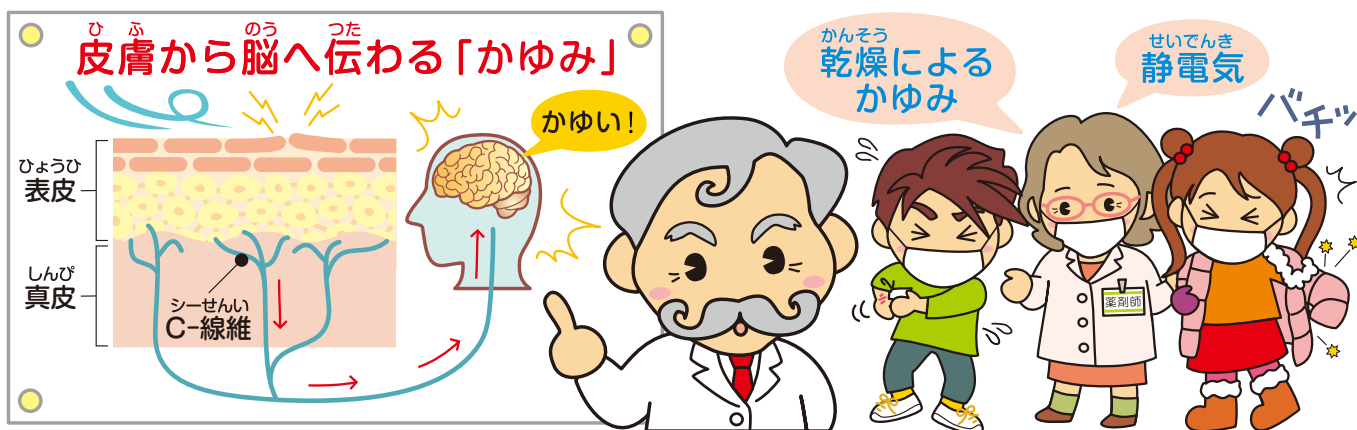
皮膚の痒みの原因は乾燥肌以外にも考えられるため、薬剤師に相談したり、症状が深刻な場合は医師の診断を受けるようにしましょう。

◆ パチッ ◆ ◆ ◆ 静電気

静電気は、湿度20%以下、気温20℃以下になると発生しやすいといわれています。

静電気をためやすい人の肌は、肌の水分量が不足している乾燥肌であるといわれています。特に、冬場は空気中の水分が少ないため放電が進みにくくなるため、静電気が体にたまりやすくなっています。

他にも体調等にも因りますが予防としては、衣類の素材選び（プラスに帯電しやすいもの、マイナスに帯電しやすいもの）など性質の似通った素材や天然の繊維（綿、絹、麻）などを組み合わせて身に着ける、運動の励行、食事の栄養バランス、なども考えてみましょう。



くまがや ちめい あじ 熊谷の地名を味わう

— せいぶへん — — 西部編 —

だい しょう べつ ぶ 第1章「別府」



は ら かん が い せきぐん ひろ でんえんふうけい
幡羅官衙遺跡群の広がる田園風景



◆「別府」の語源

熊谷市と深谷市との境界
周辺には国指定史跡「幡羅官
衙遺跡群」があります。ここ
には西別府遺跡、西別府祭祀
遺跡、西別府廃寺遺跡という
「別府」の名が付く3つの遺跡
が含まれています。発掘調査
によつて、この遺跡には、7世
紀後半から11世紀前半の「郡
家」と呼ばれる郡役所の跡で
あることが確認されています。



幡羅官衙遺跡群イメージ図

語源の有力説として、国の
中心的な機関「国府」を支え
る役所がこの地に置かれ、別
府の「府」であることから、別
府の地名になったと考えられ
ています。遺跡の存在はこの
ことを明らかにしています。
(埼玉県史「ほか」)
一方で、別府は、「別符」の
転化という説もあります。「別

符」とは飛鳥・奈良時代に制
定された国内初の法律「大宝
律令」の中で、田畑などの土
地制度について示した部分の
ことで、これに基づいた土地
があったことから名付けられ
たというものです。この土地
開拓に関連して「別府」とい
う地名が付いたという説には、
民俗学者・柳田國男などの
研究があります。(埼玉県地
名誌「ほか」)

その他、アイヌ語を起源
とする興味深い説がありま
す。アイヌ語で水の溜まり場
を意味する「pepepu」ま
たは、川の入口を意味する
「Betpuu」が別府と表
記されたという解釈です。別
府地域の付近には、荒川や利
根川の流路があったほか、大
きな沼地が広がり、現在の別
府沼の原形となるなど、古代
から水との関係が深いこと
で知られています。

◆別府氏の存在

別府には東別府の「別府
城」と西別府の「西別府館」が
所在しました。別府氏につい
ては諸説ありますが、『成田氏

系図』によると、平安時代末
期、成田氏の成田助高の次男
である行隆が別府の地を支配
し別府氏を名乗ったのが始ま
りとされています。



別府氏の墓 (安楽寺)



別府城跡の土塁 (東別府神社)

その行隆の長男である義行
が別府の東部に居住し、「東別
府氏」となり、次男の行助が

別府の西部に館を構え「西別
府氏」を名乗ったという伝承
があります。
現在「別府城跡」は東別
府神社にあり、周囲には土塁
と堀が残されています。西別
府の安楽寺には別府氏の墓が
あり、「九品仏」という貴重
な仏像が安置されています。



九品仏 (安楽寺)

明治22年(1889)、東
別府村と西別府村と下増田
村が合併して別府村となり、
昭和29年(1954) 11月、
熊谷市と合併しました。
別府という地名は長い歴史
の中で引き継がれてきた郷土
の貴重な遺産です。

熊谷市立江南文化財センター
山下 祐樹